

『ギシギシ防除』

新播草地や永年草地など、ギシギシが目立った圃場はありませんか？

ギシギシは一株数万粒の種子をつけ、土壌中の生存年限も長く、(4年後で70%以上の発芽率)生堆肥などによって圃場に持ち込まないように注意して下さい。また、ギシギシの種子は開花後2週間で発芽能力を持つと言われてますので、葉が十分展開し、花房ができる前に除草剤散布することが有効です。今回は主にギシギシ防除の除草剤を紹介します。草地における占有割合が少なければ掘り取りや除草剤の局所処理などで対応できますが、占有割合が高い場合は全面散布が効率的です。なお、作業や圃場の相談・申込みは各支所植生改善担当職員までお願いします。



■主な選択性除草剤

	除草剤	対象草地				対象雑草	時期	10a当り 使用量	注意事項	
		イネ科 単播	イネ科とクローバ類の混播	アルファルファ単播	アルファルファとクローバの混播					
経年草地	アーザラン液剤	○	○	○	○	ギシギシ類(栄養成長期)	春処理 (5月上~下旬) (採草14日前まで)	200~300ml	【春処理】 ○採草、放牧直後の散布は避ける。 ○当該番草に黄化、生育抑制が見られるので注意する。 ○高温時または降雨時の散布は避ける。 ○重複散布は避ける。 ○局所処理は50~80倍液を1株当り25ml。局所散布した周辺の牧草は飼料にしない。(イネ科単播、イネ科・クローバ混播草地に限る) 【秋処理】 ○最終採草後に行う。 ○当年はギシギシの黄化のみで翌年春に枯死する。 ○散布後14日間は放牧を行わない。	
	ハーモニー75DF水和剤	○	×	○	○	ギシギシ類	夏および秋処理(採草21日前まで)	3g(アルファルファ草地の場合は2~3g)		○クローバに対する薬害は著しい。 ○夏処理ではイネ科牧草・アルファルファにも生育抑制が見られることがある。 ○飛散には十分注意する。 ○散布に用いた器具やタンクは専用の洗浄剤で洗い、他の用途に使用したとき薬害の原因にならないようにする。 ○散布後21日間は採草及び放牧を行わない。
新播草地	アーザラン液剤	○	○	○	○	ギシギシ類(栄養成長期)	春播種草地への秋処理(10月上~中旬)	200~300ml	○夏・秋播種草地への当年秋処理は避ける。 ○最終採草後に行う。 ○当年はギシギシの黄化のみで翌年春に枯死する。 ○散布後14日間は放牧を行わない。	
	ハーモニー75DF水和剤	×	×	○	○	ギシギシ類	春播種草地への秋処理	2~3g		○クローバに対する薬害は著しい。○イネ科牧草・アルファルファに一時的に生育抑制が見られる。 ○飛散には十分注意する。 ○散布に用いた器具やタンクは専用の洗浄剤で洗い、他の用途に使用したとき薬害の原因にならないようにする。
	ハーモニー75DF水和剤	○	×			ギシギシ類(20cm以下)	夏播種牧草定着後夏処理及び秋処理	0.5~1.0g(散布水量100ℓ)		○クローバに対する薬害は著しい。なお、アルファルファ(主体・混播)草地における試験例はない。 ○ギシギシ類の葉が展開してから行う。 ○飛散には十分注意する。 ○散布に用いた器具やタンクは専用の洗浄剤で洗い、他の用途に使用したとき薬害の原因にならないようにする。 ○散布後21日間は採草及び放牧を行わない。

●注意(重要)!

※除草剤の使用量については、気温等気象条件によって調整が必要な場合がありますので、担当者に相談願います。
 ※散布後、採草・放牧を開始するのに必要な間隔期間はアーザラン液剤で14日間、ハーモニー75DF水和剤で21日間。

※アーザラン散布後の採草・放牧出来ない期間が7日から14日に変更になりました。